



明けましておめでとうございます！皆さんはどのような年末年始をすごされましたか？  
 いよいよ2010年新しい年が始まりました。新たな気持ちで公私共にこの一年を大切に充実した素敵な年にしましょう！



## 式年遷宮と技術伝承

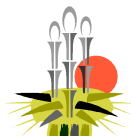
明けましておめでとうございます。如何でしたか？日曜祭日を含め9日間の連休は、日ごろの家族とのコミュニケーション不足を大いに解消された方も多かったのではないのでしょうか。家族の理解があってこそその仕事ですからそれは大事なことです。新しい年が皆さんにとって佳い年でありますようお願いしています。

我家では毎年元日に檀家寺であります龍澤寺へ年賀の挨拶にご住職をお訪ねすることにしています。龍澤寺は、臨済宗妙心寺派で空海の開創、1761年白隠和尚により開山された名刹です。禅の専門道場ですから静かで落ち着いた気分になります。機会がありましたら是非訪ねてみてください。現在のご住職は、2008年に東京の海禅寺から転住された後藤榮山老大師です。とても穏やかな顔をされていますが、何でも見透かされそうな鋭い眼光がとても印象的です。機械にご興味があるとのことで当社の粉体機器のお話も熱心に聞いてくださいます。一度当社にお招きできればと思っています。転住されたときからお会いしていますが、そのときからどなたかに似ているなと思っていましたがずっと思い出せませんでした。それが最近ようやく気付いたのです。よく掛け軸などに描かれている達磨さんにそっくりなのです。これは、主観的ですから誰にも言っていないんですけど。

昨年暮におよそ10年ぶりに我家の板塀を水洗いしました。洗わないほうが重厚な趣があっていいと亡き父が主張したので、つらい作業であるからこれ幸いと手をつけないでいたのですが、いかにも汚れがひどく見栄えが悪い幸運が舞い込んでくるかもしれないという思いも込めて垢落しに取り掛かりました。汚れが落ちていく様は、実に気持ちのよいもので二日間かかった作業の疲れも消し飛んでしまうほど達成感を味わいました。この作業の中で表札がひどく汚れ、字が不鮮明なほどになっていることに気付きました。また、亡くなった父の表札も掛かったままであることも改めて気づき、外しました。会社では3Sと声を大にして叫んでいるのですが、自宅では毎日表札の近くを通るのに気がつかないとは情けないと思わず首をすくめました次第です。

さて、外した父の表札をどうしたものかと思案した結果、龍澤寺の老師様に聞いてみようと思案があり早速実行に移したところ、『私がねんごろに処分しましょう』とお言葉でした。併せて私の表札も書いてくださることになりました。ありがたいことです。そのような訳で、今年の年賀の挨拶の折に龍澤寺に持参したわけです。老師にそれを見せると、『大変素晴らしい字です。故人本人が書いたものなら、これは半紙に包んで仏壇にしまっておき後世に残したほうがいい』ということに相成りました。また、その木製表札の裏をご覧になり伊勢神宮の焼印のあることに触れ、技術伝承のお話になりました。皆さんの中にはご存知の方もいるかもしれませんが、私はまったく知りませんでした。それは、式年遷宮という20年に一度伊勢神宮の建物を新しく作りかえることにより技術の伝承が行われるということでした。更に詳しく知りたいので帰宅してPCで調べたところ概ね以下のようです。20年に一度、正殿はじめ御装束、神宝を作り替えて、ご神体を新宮に遷す遷宮が行われてきた。第1回は、690年だった。平成25年(2013)には第62回の式年遷宮が行われる。人生の区切りは20年であろう。20歳、40歳、60歳、現代でこそ80歳が平均寿命だが、戦前までは「人生50年、延びたところで60年」といわれていた。明治33年(1900年)の日本人の平均寿命は37歳、大正から昭和のはじめが40歳。昭和22年に50歳を超え、昭和45年に世界一となる。だから1300年前はずっと低かったはずである。当時の20年は今よりずっと重い年月で、技術伝承を引き継ぐには精一杯の年限であったと思う。宮大工を例にとるならば、20代で入門し、40代で一人前、60歳で棟梁になる。(日経トレンディネットから抜粋)

また、技術伝承のほかに、二つの意味があるそうで 神殿は掘立柱に茅葺屋根で白木造なので建て替えて美しさが保たれる、20年に一度の蘇生を繰り返すことで永遠性を得るといふ神道的な意味を持つ。解説は以上です。今もその式年遷宮が行われ、技術伝承が脈々と続いていることに感動を覚えます。私の表札は書きあがったら連絡を下さるので後日受け取りに伺うことになりました。因みに、この木製表札は、私が塀の掃除が終えた夜、神棚を祀ってある棚にずっと紙袋に入れたまま置いてあった表札を他の探し物をしているときに家内が偶然見つけたものです。私の母校掛川西高等学校創立100周年記念として平成12年に学校からいただいた表札です。学校が所有する山林から切り出した古木を表札に加工したものです。これも不思議なご縁です。



社長 赤堀肇紀